

第二級海上特殊無線技士試験
超簡単に合格できるレポート

高松海事事務所

Tel : 044-789-8441

Fax : 044-789-8442

超簡単に合格できるレポート

～これがあれば教科書不要～

このレポートにおける学習方法を実践して頂ければ、誰でも簡単に

『第二級海上特殊無線技士』の資格が取れちゃいます♪

もちろん、一定の時間を割いてレポートに書いてある学習方法を実践してもらう必要があり、

「簡単に合格することができるが『何もしなくてもいい』というものではありません」

ので、ご注意ください。

この方法を使用し、きちんと実践して頂ければ試験開始後わずか10分で**24問中「22～24問正解」**して合格を手にすることができます♪

ぜひお試しください！！

ただし、この学習方法のデメリットとしては、「資格は取れるが、何も理解できていない」という弊害が生じます。ご注意くださいませ。

※本レポートは合格を保障するものではありません！！

『第二級海上特殊無線技士』は、令和4年9月よりC B Tによる国家試験が導入されました。これにより、年に3度しかやっていなかった試験が全国で、特に都心部では毎月・毎週受検ができるようになりました（地域差はあると思います）。

合格するための学習方法について

基本的な勉強方法として、勉強の100%を「問題集を見る」という方法でしてください。「問題を解く」というより「問題と解答を見る」という作業に終始する感じです。そして、決してテキストを読んではいけません。なぜなら「難しいから」です。「問題集を解いていて、わからなかったらテキストを確認する」という作業は割と資格試験を受験される際の王道ですが、それすら不要です。理解して学習しようとする、科目である「無線工学」で相当程度に気力を削られるからです。言っていることもイマイチわかりづらいし、なにより計算もあって頭を使い、計算違いをすると不正解となります。

学習はとにかくひたすら問題集の反復です。問題の9割は過去問とまったく同じ問題を使い回していますので、ほぼそのまんま出題されます。違う問題もしばしば出題されますが、結局「内容・中身」は同じですし、出題されても1～2問程度なので、ほとんど誤差の範囲です。実際の試験の出題のされ方としては、問題集と丸っきり同じ問題が9割程度で、ちょっと違う問題が出たとしても、せいぜい肢の順番を入れ替えただけの問題です。見たことのない問題が出題されても、同主旨の内容を逆に問う問題、数字だけ変えて新しくした問題などですし、冷静に問題をよく見てみると、結局は「今までと同じ学習範囲」の問題なので、焦らないでよく見れば「なんだ、よく見たら問うてくることはまったく一緒じゃないか」となりますので、正解を導くのは法規の分野であれば造作もないです。無線工学に関しては未知の問題が出題されると正解することは厳しいですが、それを不正解してしまっても合格にはまったく影響はありません。なぜなら、そういった問題は全体で1～2問しか出題されませんし、全体でみると、24問中、8問も不正解が許されるから です（合格基準は後述します）。そもそも、24問中軽く23問程度を正解できるところ、全体で

8問もの不正解が許されると考えると、合格までの難度は相当程度に低いと言えます。

以上より、とにかく問題集を見て、暗記に努めてください。具体的な方法としては、1から10まで、まずは全部の問題と答えを「見て」ください。最初は集中力等（テキストを使用しないので、特に無線工学は何を言っているかさっぱりわからづらく、相当程度にやる気を削がれます）の個人差もありますので一概には言えませんが、概ね2時間程度で全部見れてしまいます。

さらにもう1度、1から10までを見ます。2回目は1度を目を通してあるので少し早く片付くと思います。3回目はさらに時間が削れます。4回目にもなると、法規は7割くらいはスラスラになっている筈です。5回目から6回目の時点で、付箋をご用意ください。6回目くらいには概ね7～8割は、「この問題、答えこれでしょ？」という風になると思います。ところが、何度やっても暗記できない問題が必ず出てきます。その問題全てに付箋を付けてすぐに見直せるようにします。7回目～10回目は付箋をした問題だけ見ます。これで問題集の問題はほぼ完ぺきになると思います。

この段階までもってこれば、本試験ではかなり拍子抜けになると思います。

■「法規」科目の攻略

第二級海上特殊無線技士で一番余裕な分野です。初見の段階でも「何を言っているのか理解できる」ため、スラスラ進んでいけます。また、単に穴埋めをしたりなど、手続きについて問うたりなど、非常に難易度が低いです。ここは確実に全問正解を狙える分野です。

とはいえ、6回転目になっても、どうしても答えを暗記できない問題が出てきますので、付箋を使用して確実に抑えてください。

■「無線工学」科目の攻略

ここが踏ん張りどころです。無線工学は普通に勉強をすると「難しい」という分野です。複雑な計算式や難解な暗記を求められる分野です。また、日常正確ではあまり関わらない分野ですし、専門用語も飛び交います。なので、まったく面白みがなく、どうしても毛嫌いし、中々覚えづらいなど、少し踏ん張りが必要になってきます。

そして、正攻法で行くと、相当な学習時間を要することになりますので、「絶対に勉強してはダメ」です。勉強をせず、ひたすら「暗記」です。方法は同様に、ひたすら「問題と答えを見る」という作業です。そうすると、5回転目には、「理由はよくわからないけど、とりあえず答えはこれでしょ」となるわけです。問題集には問題の解き方として計算式も掲載されていますが、それらは100%無視してください。見る必要はない、というより見てはダメです。このレポートを信用して問題と答えのみをひたすら見てください。

推薦図書（誠文堂新光社 特殊無線技士問題・解答集）



- ①必ず最新のものをご用意ください。
- ②無線工学では計算式が記載されていますが、見てはいけません。
- ③本自体は分厚いですが、二海特のページは少ししかありません。